

不祥事根絶に向けた校内研修

校種：小学校

1 研修テーマ

「不祥事発生。その時、私たちはどのように子どもを守ればよいだろうか。」

2 研修テーマ設定のねらい

不祥事が発生したことを想定し、その時どのようなことが学校に求められるのか、また、児童にはどのような影響があり、どのようなサポートをする必要があるかを具体的な場面を想定しながら考えることで、絶対に不祥事を起こしてはならないという気持ちを高めることをねらいとして、本テーマを設定した。

3 研修実施までの流れ（準備）

過去の不祥事の事例を学び、誰にでも起こりうる事例を抜粋し、本研修の状況設定とした。

4 研修当日の流れと時間配分（総時間：約60分）

(1) 目的確認と状況説明（10分）

不祥事が発生すると、学校ではどのような対応が必要になるだろうかを考えることで、不祥事を絶対に起こさない気持ちを高めることが、本研修の目的であることを確認し、不祥事の想定を説明する。

(2) 状況予測（15分）

4名程度の班に分かれ、不祥事が発生した場合、学校ではどのようなことが起こるか予測する。その後、予測した状況について、全体で共有を図る。

(3) 状況対策（15分）

予想される事態の中から話し合う課題を選択し、具体的にどのような対策が必要になるか話し合う。

(4) まとめ（20分）

グループで話し合った内容を共有する。

5 研修で活用した資料

(1) 教職員の服務に関するガイドライン「信頼される質の高い教職員であり続けるために」 令和2年3月 千葉県教育委員会

第1章 3 行政処分

4 教職員が負う責務

5 懲戒処分の指針（抜粋）

(2) 当日の展開（別添資料参照）

6 研修参加者の声

(A 教諭)

10年間教員として勤務を続けてきたが、たった一度の過ちによって自分だけでなく、家族や勤務校職員、学級の子供達や保護者の人生も大きく変わってしまうことを改めて痛感した。

教員を目指したきっかけは人それぞれだとは思いますが、多くは高い志をもち、教員人生がスタートしているはずである。しかし、時代の変化により生まれる

様々な課題が、見えない部分で大きなストレスとなっていたり、気持ちのゆるみにつながったりしていることについても見つめ直すきっかけとなった。また、絶対にあってはならないが、自分自身にも起こりうる可能性がゼロではないという危機感も感じた。

(B 教諭)

担任が退職した影響が思っていた以上に大きいことに驚きました。児童の心のケアや、その状況を見童に説明するとなると、説明をする立場の教員がどんな思いで伝えるのか考えるだけで心が痛みました。

(C 教諭)

職場の環境が風通しのよいものであれば、不祥事を未然に防ぐことができる可能性は大きく上がると思う。機会をとらえ意図的にコミュニケーションを図っていくことが大切だと感じた。また、今の自分の立ち位置を考え、先輩の職員と若い職員とをうまくつないでいくことも大切な役割なのだと考えた。たった一度の過ちがその人に関わるすべての人を傷つけることを今一度心に刻み、自分はもちろんのこと、職場から決して不祥事を起こさない決意を高くもち努めていきたい。

(D 教諭)

不祥事の内容が、体罰や情報漏洩などではなく、紛失物のポイントカードを利用したという内容であったので、最初は重い案件ではないと感じてしまう自分がいました。しかし、その後の学校の対応を考えていくと、不祥事に軽重があるわけではなく、浮ついた気持ちで起こしたことがこんなにも学校や子ども達に影響があるのかと恐ろしく感じました。

7 研修の成果と課題

(1) 成果

- ・ 不祥事が実際に発生したと想定することにより、不祥事が児童や保護者に与える影響の大きさについて真剣に考え直すことができた。絶対に不祥事を起こしてはならないという意識が高まった。
- ・ 誰にでも起こりうる事例を取り上げることで、職員全体の危機管理意識を高めることができた。

(2) 課題

- ・ 不祥事が発生した際、どのような事が起こるかを具体的に考えることが、本研修の要点なので、状況予測をする前に、職員にどのように声かけをし、話し合いを深められるかが課題となった。
- ・ 「不祥事の想定」を考える際、県教育委員会からの通知等だけでは具体的な想定を立てることは難しい。より具体的な「不祥事の想定」を考えるためには、様々な情報を活用する必要がある。